



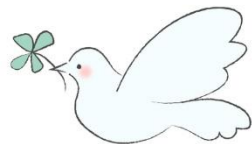
6月23日は太平洋戦争の末期に沖縄の地上戦で犠牲になった方々を追悼する「沖縄慰霊の日」です。沖縄戦では日米合わせて20万人以上が犠牲になり、そのうち19万人が日本側の方達ということです。沖縄では毎年この日の正午、黙禱を捧げ知事が平和宣言を行います。

今年は式典の中で小学校2年生の女子が自作の詩を朗読しました。ご覧になった方も多と思います。右の詩がその全文になります。約3分半しっかりと前を向き、ほとんど原稿を見ずに読み切りました。

この中で「きゅうにこわくなっておかあさんにくっついた あたたかくてほっとした これがへいわなのかな」の一節に胸が熱くなりました。

ポケットに入れたもの、私たちもしっかりと大切に持っておこう。なくさないように。わすれないように。

沖縄戦から77年、本土返還から50年、私たちは「こわい」を知らなければならぬ。



こわいをして、へいわがわかった

沖縄市立山内小学校 2年 徳元 穂菜(ほのな)

びじゅつかんへお出かけ
おじいちゃんや
おばあちゃんも
いっしょに
みんなでお出かけ
うれしいな

こわくてかなしい絵だった
たくさんの人がしんでいた
小さな赤ちゃんや、おかあさん
風ぐるまや
チョウチョの絵もあったけど
とてもかなしい絵だった
おかあさんが、
七十七年前のおきなわの絵だと言った
ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいて
ガイコツもあった
わたしとおなじ年の子どもが
かなしそうに見ている

こわいよ
かなしいよ
かわいそうだよ
せんそうのはんたいはなに？
へいわ？
へいわってなに？
きゅうにこわくなって
おかあさんにくっついた
あたたかくてほっとした
これがへいわなのかな

おねえちゃんとけんかした
おかあさんは、二人の話を聞いてくれた
そして仲なおり
これがへいわなのかな

せんそうがこわいから
へいわをつかみたい
ずっとポケットにいれてもっておく
ぜったいおとさないように
なくさないように
わすれないように
こわいをして、へいわがわかった

パンフレット作成中！

ご朱印ブームと将門公ゆかりのお寺として、訪れる参拝者が増えているように感じます。加えて我孫子市の史跡にもなっていることから小学校の校外学習や学生のレポート作成等で来られて、資料を求められることが少なくありません。かねてよりこうした時のために配布できるパンフレットを作成しようと考えておりました。そんな折、コンビニに置かれている「ぐるっと千葉」という情報誌の取材を受けて今年2月号に観音寺が掲載されました。将門公や住職の似顔絵など大変素晴らしく、また愛嬌のあるイラストがとても気に入りましたので早速イラストレーターの「ふじたいら」さんにコンタクトをとり日秀らしさとキャラクタにもなりうる首曲がり地蔵のイラストを描いていただきました。



現在このイラストを元に観音寺のパンフレットを作成中です。完成いたしましたら皆様に配布させていただきます。



朝日を拝む将門公

観音寺アーカイブス ～待道講～



待道大権現の掛軸

観音寺にはかつて様々な「講」がありました。「念仏講(ねんぶつこう)」「普門品講(ふもんぼんこう)」そして「待道講(まつどっこう)」です。

その中から今回は「待道講」についてお話しします。

この講は、いわゆる安産祈願の子安講で、観音寺では日秀地区の若い既婚女性が観音堂に掛け軸をかけて供物を捧げて安産無病息災を祈願していました。出産の際に枕元に掛けたこともあったそうです。

待道講の由来は諸説あるようですが、「妻が夫を道端で待っている間に産気づいて赤ちゃんが生まれた」ということに所以されるようです。

現在は「待道講」としての集会はなく「きさらぎ会」として日秀集会所で茶話会のようにして歓談されているようです。



観音堂前の祠